

福島隆史 (ふくしま・たかし)

公認会計士。(株)サステナビリティ会計事務所
／サスティナビー・コミュニケーションズ(株)代表
取締役としてコンサル／レポート制作／保証を
行う。著書「CSRエピソード」幻冬舎 2017年。

SDGsを経営力の
向上に活かそう

なぜ企業はSDGsに取り組むの
でしょう。
エスティー・ジーズ

が、次のような趣旨の内容を私におつ
しやったことをご紹介します。「当社
の社員は皆、誠実であることが誇りで
す。しかしチャレンジ精神旺盛な社員
が若干少ないように感じています。S
DGsへの貢献を標榜する会社となる
ことで、当社の社員の意識を外に向
けるきっかけを与えたい」と。そもそ
もチャレンジ精神が醸成されるためには、
社会課題を認識する感度の良いアンテ
ナを社員が持ち、社会への価値提供の
可能性への意識を高めなければなりま
せん。日常の社内での業務遂行ルーチ
ンは、ともすると社会課題から隔絶さ
れた思考回路を生みがちとなっていま
います。そこで、企業としてSDGsに
取り組むことで、社員が社会課題に気
づくきっかけを与えたい、というわけ
です。SDGsを企業が推進するという
ことは、企業にとって単なる社会への
ボランティアという側面だけではないの
です。SDGsを現代社会における課
題のリストアップにとらえ、社員に社
会課題に気づき解決しようとするこ
とはきつと、その企業の将来を明るく

させるのではないのでしょうか。

昨今は新人採用に苦労している企
業も多いと認識しています。では就職
を検討している方の側から見て、自社
の紹介を、自らの業務内容の説明から
入ってしまう企業と、その企業が向き
合っている社会課題をまず提示し、そ
の解決に貢献している、また、今後更
に社会課題の大きいなる解決に貢献し
ようとする意思と計画があると宣言
している企業の、どちらがより魅力的
に映るでしょうか。

本業を通じてSDGs貢献を果たそ
うとしているお客様の立ち位置につい
ても考えてみましょう。自らの直接的
な事業活動領域だけでSDGsへの貢
献を目指そうとすると、すぐに限界が
きてしまいます。早晩、バリューチェー
ン全体で、すなわち取引先やパートナー
企業全体を巻き込んで社会課題解決
を目指すことになりましたが、お客様か
ら見てそのような、SDGs貢献を既に
標榜している企業と、そういったこと
への意識が低い企業の、どちらとより
タッグを組んで事業の推進にあたりた
いでしょうか。もはや答えは自明です
よね。

SDGs

Sustainable Development Goals
(持続可能な開発目標)

2015年国連が採択した持続可能な開発のための
2030年アジェンダ

